

アシュラン本社ビル

ASSURAN Corporate headquarter building

No. 03-012-2010作成

新築
事務所／集会場／飲食

発注者	株式会社 アシュラン	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術／FB
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 大林組	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

地域の緑のネットワークに寄与する「森の中の社屋」

ランドスケープコンセプト

この地域は、以前は自然林、ため池のある自然豊かな土地であった。その後行われた土地区画整理事業により大部分が宅地化されることとなったが、自然林や池の一部が保存され、市民の憩いの場・公園としての活用が図られた。その大規模な地区公園は『里山の復元』をコンセプトにした公園づくりが行われた。

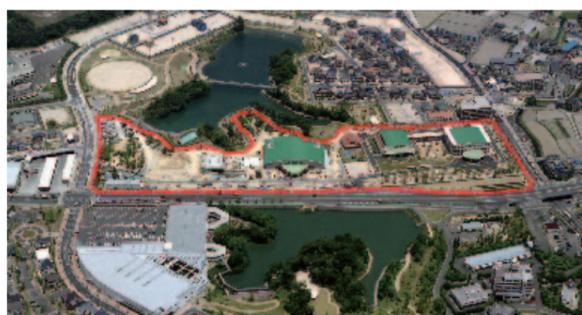
株式会社アシュラン本社は、大きく北と南に2分されたこの地区公園のちょうど中央に位置しており、計画地内の緑化は、地域の『森のつながり』を形成するのに非常に重要な役割を果たしている。

アシュランがこの場所に本社を建設し、豊かな緑地を創出することについては、アシュランの会社理念である「人々の夢と希望の実現に役立つ会社」の実践としての強い意図により行われている。

ゆとりある職場環境は、社員の福利厚生面に対する配慮としてだけでなく、地域における緑のネットワーク（ビオトープネットワーク）の中で非常に大きな核となっており、この場所で整備された企業内緑地自体が、地域社会の発展や、グローバルな「環境」に対しても少なからず寄与できるものとする。



全体写真



南北の地区公園（親水公園）と計画敷地



配置図

建物データ

所在地	福岡県大野城市上大利
竣工年	2010年
敷地面積	49,443m ²
延床面積	28,602m ²
構造	RC造
階数	地下2階、地上3階

森の中の社屋

株式会社アシュラン新本社計画にあたっては、周辺の緑化計画とも一体となった『森の中の社屋』をコンセプトとしたプランニングが行われた。

- 建物を分節化するとともに各建物を包むように緑地を配置し、周辺に威圧感を与えないように配慮した。
- 全国から来訪される方々が、一年を通してどの季節に来社しても、どこかに印象的に花が咲いているような植栽計画とした。
- 敷地内の緑地をできるだけ確保するために駐車場を地下化した。



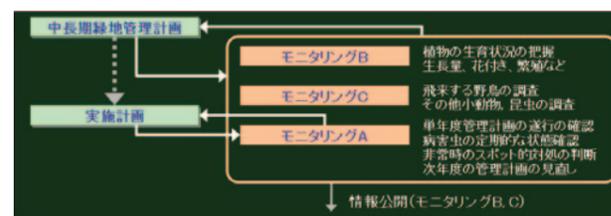
断面図



配置コンセプト



地下範囲図



緑地のモニタリング調査を行い管理計画に反映

緑地管理計画を策定し、中長期計画及び実施計画の点検のため、下の3つのモニタリングを行い、計画が確実に実施されたか、また、計画内容が適切であったかなどの確認を行うこととし、その結果を定期的に見直すものとしている。

モニタリングA：単年度管理計画の遂行の確認、病虫害の定期的な状態確認、非常時のスポット的対処の判断、次年度の管理計画の見直し

モニタリングB：植物の生育状況の把握、生長量、花付き、繁殖など

モニタリングC：飛来する野鳥の調査、その他小動物、昆虫の調査

周辺環境との調和とエコロジカルネットワーク

周辺環境との調和を図り、地域の「森のつながり」を形成するよう配慮し、施設配置や植栽計画を行った。



設計担当者

統括：岩下博美／建築：吉浦一郎、清水清美／構造：伊藤義弘／設備：笠原修
電気：中山卓雄／インテリア：石樽宣之

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（小動物の生息地の確保、ビオトープ）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（建物配置や形態の周辺緑地との調和）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（地域と一体となった、豊かな中間領域の形成）
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制（高性能ガラス（Low-eガラスの採用））
- LR2. 1. 水資源保護（雨水貯槽層設置による雨水利用）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（打ち水パイプの採用による夏季の温度上昇の軽減）